



▲熱心に勉強する子どもたち



教育のページ

初めて3校合同で実施「合宿通学」

今年度で6年目を迎えた「親のありがたみがわかる合宿通学事業」が、深谷地区の老人いこいの家「やすらぎ」で開かれました。

合宿通学に参加したのは、村内3つの小学校の4年生から6年生の計39人。昨年までは小学校ごとにそれぞれ合宿通学を行っていましたが、今年度から各小学校合同とし、1回目が6月9日から17日、2回目が6月23日から7月1日、3回目が7月7日から15日の日程で行いました。

子どもたちの指導は、「NPO法人いいって教育文化福祉の茂里支援センター（北原繁理事長）」のスタッフが、子どもたちと一緒に宿泊し、全ての生活指導を行いました。

合宿では、食事の支度はもちろん、掃除や洗濯も全て自分たちでしなければなりません。夜は9時に就寝し、翌朝5時に起床して朝ごはんを作ったり、下校後は食事の準備や掃除・洗濯

など、みんなで仕事を分担して共同生活を送りました。

また、参加した子どもたちは「寝坊をしない」「みんなと仲良く過ごす」など、それぞれ自分の目標を決めて、8泊9日の生活に取り組みました。

合宿では、毎日の宿題はもちろん、「あいの沢」でオリエンテーリングなどの野外活動を行ったり、自分たちで弁当を用意したり、さらには公共バスを利用して村外活動も行いました。なかには初めて公共バスに乗る子どももいて、事前に乗車マナーを勉強し、自分たちでバスの料金を払って乗り降りするなど、合宿ならではの貴重な体験もしました。

初めて合宿通学に参加した菅野勝也君（飯館小5年・比曽）は「今まではカップラーメン位しか作ったことがなかったのでも、お母さんはいつも大変な思いをしていることが分かりました。帰ったらお手伝いしたいです」と話していました。

子育て相談室

－ お気軽にご相談ください －

わが家のまでい子育て

飯館村では、「までのい村づくり」「までの子育てクーポン」「までのい教育」など、「までのい」という言葉がいろいろなところに使われています。までのいは、心を込めて、手間暇かけて、丁寧な、という意味とうかがいました。村の基本的なあり方を示すユニークで素晴らしいものの考え方に敬服しています。

最近、はじめて親になった青年から「病室に赤ん坊と一緒に戻ってきた妻から、『この子をどんな子どもに育てましょうね?』と尋ねられた。考えていなかったことを聞かれ愕然とした。どんな子どもに育てたいか、二人で話し込んだ」という話を聞きました。

飯館村の親さん方、わが子をどのような人間に育てようとしていますか。きっと、わが子が育つ折々に、そのようなことを夫と妻で話し合っておられることと思います。夏休みです。わが子とたつぷりふれ合い、改めてわが家の「までのい子育て」の方向をしっかりと見定められますことをお勧めします。

飯館中学校スクールカウンセラー

海野 和夫